

岩瀬忠震関係文献抄（六訂稿）
一向島・ヘーン大尉表功碑探訪余聞一

（令和 4（2022）年 8 月 9 日（火）現在）

〔目 次〕

（補正経緯）	1
1 はじめに	2
2 岩瀬忠震関係文献抄	3
(1) 著書	3
(2) 論説その他	5
【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）	6
【関連事項】	7

（補正経緯）

HP 初載：平成 19（2007）年 3 月 1 日初稿作成

平成 19（2007）年 11 月 17 日改訂稿作成（文献追加）

平成 20（2008）年 11 月 24 日二訂稿作成（文献追加）

平成 21（2009）年 1 月 30 日三訂稿作成（文献追加、補正）

平成 22（2010）年 9 月 9 日（木）四訂稿作成（文献追加、補正）

平成 30（2018）年 1 月 11 日（木）五訂稿作成

（小野寺龍太『岩瀬忠震 五州何ぞ遠しと謂わん』（ミネルヴァ日本評伝選、ミネルヴァ書房、平成 30 年 1 月 10 日刊）刊行の件
を下記に「（追記）」として追加。その他一部修正）

令和 4（2022）年 8 月 9 日（火）六訂稿作成

（レイアウトを全面的に変更し、一部補正、追加した。）

（追記）

平成 30（2018）年 1 月 10 日ミネルヴァ書房より小野寺龍太（1945～）『岩瀬忠震 五州何ぞ遠しと謂わん』（ミネルヴァ日本評伝選、ミネルヴァ書房、平成 30 年 1 月 10 日刊）が刊行された。本稿は、同書に基づき修正の要があるが、諸般の事情で今回は紹介のみにとどめざるを得ないことを遺憾に思う。

〈<http://www.minervashobo.co.jp/book/b333356.html>〉

また、四訂稿時掲載サイトで現在では見られないものも多々あるが、すべては修正できなかったことをお断りしておく。
（平成 30 年 1 月 11 日追記）

1 はじめに

ヘーン大尉（1839～1892）関係文献については、本 HP に「ヘーン大尉関係文献抄」〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hoen001.pdf>〉として、別に掲載しているが、同大尉の表功碑が墨東向島の三囲神社にあることは、我が警察史関係諸書にもよく記載されている。ただ、長く行ったことがなかった。今の地勢からすると、同表功碑がどうしてそのようなところにあるのか不思議に思う向きもあるようであるが、関東大震災以前の向島は、なかなか風雅な地であつたらしい。

- ・ HP「ドイツ大尉ヘーン表功碑」（平成 22 年 9 月 9 日追加）

〈<http://www18.ocn.ne.jp/~bell103/doitsu.html>〉

（ただし、平成 30 年 1 月 11 日現在では上記は見るできないようである。ついでに、HP「大佗坊の在目在口」中「「普国警察大尉ヘーン君表功碑と副碑」碑文」を参照。）（平成 30 年 1 月 11 日追加）

〈<http://blog.goo.ne.jp/mearikutari/e/c0511699b70a663c81e65b76b24b47b9>〉

上記表功碑のことを知るまでは、向島の史跡というか名所といえば、向島百花園のことしか知らなかった。数年前に、坂元純熙（1843～1914）や国分友諒（ともさね、1837～1877）が徴集隊の首脳として参加した明治 7（1874）年の台湾出兵の絡みで、大倉喜八郎（1837～1928）に関心を持ったが、その折に、大倉雄二氏（1918～1991）の一連の著作（『逆光家族』（文藝春秋、1985.4）、『男爵』（文藝春秋、1989.7）、『鯨』（文藝春秋、1990.7。文春文庫、1995.3.））を読んで、戦前は大倉喜八郎の大別邸蔵春閣がここにあったことを知ったので、ある一日、ヘーン大尉表功碑を見がてら、同別邸跡地を探しに行ったことがある。

- ・ HP「墨田公園」〈<http://id20.hp.infoseek.co.jp/odaiba-sumidakouen.htm>〉、
〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9A%85%E7%94%B0%E5%85%AC%E5%9C%92>〉
（平成 30 年 1 月 11 日一部修正）

この時、近くの白鬚神社に詣でたところ、境内に、永井尚志（なおゆき、介堂、1816～1896。下記サイト参照。）の手になる「岩瀬鷗所君之墓碑」（下記サイト参照。実態は顕彰碑。墓は東京都立雑司が谷霊園にある。）があり、この下部に、岩瀬忠震（ただなり、鷗所、1818～1861）の事歴が記されていた。更に、白鬚橋東側界限を散策すると、岩瀬が蟄居していた「岐雲園」の紹介掲示があり、これらにはいささか吃驚した。日本開国に大きな功績を残した岩瀬忠震終焉の地はまさに同地であつたのである。

（下記サイト：平成 21 年 1 月 30 日追加）

- ・ 「永井尚志」（なおゆき、1816～1891）：
〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B8%E4%BA%95%E5%B0%9A%E5%BF%97>〉
- ・ HP「岩瀬鷗所君之墓碑」：〈<http://oshimamd.sakura.ne.jp/nagaoka/121.htm>〉
（参考：〈<https://drunkenjohnny.muragon.com/entry/1016.html>〉）
- ・ HP「雑司ヶ谷霊園に眠る著名人」：
〈<http://www.kosho.ne.jp/~ouraiza/jousetsu/list-bohi.htm>〉

・HP「巖瀬氏奕世之墓」：

〈<http://oshimamd.sakura.ne.jp/nagaoka/146.htm>〉

帰宅してから、昔買ったままだった松岡英夫（1912～2001）『岩瀬忠震』（中公新書、昭和56年10月25日刊）を取り出して事実を再確認したが、その他は特段何もしないでいた。

しかるに、その後、高橋雄豺博士（1889～1979）の著作目録（本HP別稿〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takahashi001.pdf>〉参照。）を作成中、同博士が晩年に林鶴梁（1806～1878）の研究をされていたことを知り、上記松岡英夫『岩瀬忠震』に、岩瀬が林のために行動していたこと（197、198頁）が書かれていたのを思い出した上に、最近は一ヘン大尉関係文献を調査し始めたこともあって、この機会に、不十分ではあるが、改めて岩瀬忠震関係文献も少し調べてみることにした。

これらについては、現在ではネットでもおおよそのことが判明するが、既に学者をはじめ多くの方が論じてきている。加えて、岩瀬の実家であった旗本設楽家の所領が今の愛知県新城市にあったということから、新城市のHP〈<http://www.city.shinshiro.lg.jp/>〉でもかなり紹介されており、また、地元の岩瀬忠震崇拜者の方々が「忠震会」（ちゅうしんかい）なる団体を作って、大変な活動をされておられることを知った。ただただ敬服するばかりである。こうしたことからすると、今更門外漢のアマチュアがなし得ることなど何もないが、一ヘン大尉表功碑探訪からたまたま思いがけずも得たものとして、一、二記載しておきたいと思う。

2 岩瀬忠震関係文献抄（詳細は下記各書記載の諸文献をも参照。）

「岩瀬忠震」：

〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%A9%E7%80%AC%E5%BF%A0%E9%9C%87>〉

〈<http://www.h2.dion.ne.jp/~jiemon/iwase-index.htm>〉（平成22年9月9日追加）

（1）著書

・栗本鋤雲（1822～1897）『匏菴十種』（報知社、1892（明治25）.3.26）（塩田良平編『成島柳北・服部撫松・栗本鋤雲集』（明治文学全集4、筑摩書房、昭和44年8月刊）に収録。（この部分：平成21年1月30日追加））

（参考）栗本鋤雲の著作につき、小野寺龍太（1945～）『栗本鋤雲一大節を堅持した亡国の遺臣一』（ミネルヴァ日本評伝選、ミネルヴァ書房、平成22年4月10日刊）中「参考文献」261頁以下参照。（この部分：平成22年9月9日追加）

・福地源一郎（桜痴、1841～1906）『懷往事談』（民友社、1894（明治27）.4.5）

・川崎紫山（三郎、1864～1943）『幕末三俊』（春陽堂、1897（明治30）.11.27）

.....

・田辺太一（1831～1915）『幕末外交談 1、2』（平凡社、東洋文庫、1：1966（昭和41）.6.10、2：1966.8.10）

- ・福地源一郎(桜痴、1841～1906)『幕府衰亡論』(平凡社、東洋文庫、1967(昭和 42) .2.10)
- ・石井孝(1909～1996)『幕末 非運の人びと』(有隣堂、1979(昭和 54) .10.20) (有隣新書 16)
- ・森篤男(? ～)『横浜開港の恩人岩瀬忠震』(横浜歴史研究普及会、1980(昭和 55) .9.10) (よこれき双書 第 1 巻) (未見、初版か)
- ・網淵謙錠(1924～1996)『幕臣列伝』(中央公論社、1981(昭和 56) .3.20。新装版 1998.3.25) (その三 岩瀬忠震)
- ・松岡英夫(1912～2001)『岩瀬忠震: 日本を開国させた外交家』(中央公論社、1981(昭和 56) .10.25) (中公新書 630)
- ・横浜郷土研究会有志[編]『岩瀬忠震 横浜開港之首唱者』(横浜郷土研究会有志、1982(昭和 57)) (未見)
- ・森篤男『横浜開港の恩人岩瀬忠震 第 2 版』(横浜歴史研究普及会、1982(昭和 57) .7.24) (横歴双書 第 1 巻)
- ・岩瀬肥後守忠震顕彰会『爽恢一岩瀬忠震顕彰碑建立記念誌一』(愛知県・岩瀬肥後守忠震顕彰会、1986(昭和 61) .4.20)
- ・飯田虎男(1953～)『岩瀬忠震の年譜的研究』(自己出版、1990(平成 2) .6) (日付なし)
- ・岩瀬忠震書簡研究会『木村喜毅(芥舟)宛 岩瀬忠震書簡注解』(岩瀬肥後守忠震顕彰会(忠震会)、1993(平成 5) .3.20)
- ・河原芳嗣(1923～)『江戸の旗本たち—墓碑銘をたずねて—』(アグネ技術センター、1997(平成 9) .3.31) (「65 岩瀬忠震」206～209 頁) (平成 21 年 1 月 30 日追加)
- ・土井良三(1921～2005)『幕末 五人の外国奉行 開国を実現させた武士』(中央公論社、1997(平成 9) .7.10)
- ・<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%9F%E5%B1%85%E8%89%AF%E4%B8%89>
- ・岸上耿久(1921～)『光芒遥かなり (小説岩瀬忠震)』(忠震会、1998(平成 10) .8.1)
- ・設楽原歴史資料館資料研究委員会編『岩瀬忠震』(設楽原歴史資料館資料集 第 2 集) (新城市教育委員会、199?)
- ・森健次(1935～)『暁星 開国の扉を開けた幕吏・岩瀬忠震』(文芸社、2001(平成 13) .12.15)
- ・福地桜痴『幕末政治家』(岩波文庫、2003(平成 15) .11.14) (平凡社、東洋文庫、1989(平成元) .5)
- ・新城市設楽原歴史資料館編『岩瀬忠震 開国の星 設楽原ゆかりの外交官』(新城市設楽原歴史資料館、2004(平成 16)) (未見)
- ・岩瀬忠震書簡研究会『橋本左内宛 岩瀬忠震書簡注解』(忠震会、2004(平成 16) .6.30)
- ・野口武彦(1937～)『大江戸曲者列伝 幕末の巻』(新潮新書、2006(平成 18) .2.20) (「能ある鷹は爪を剥がす」(18～23 頁)) (平成 20 年 11 月 24 日追加)
- ・小野寺龍太(1945～)『古賀謹一郎一万民の為、有益の芸事御開一』(ミネルヴァ日本評伝選、ミネルヴァ書房、2006(平成 18) .5.1) (平成 30 年 1 月 11 日追加)
- ・山本盛敬(1968～)『小説 横浜開港物語 佐久間象山と岩瀬忠震と中居屋重兵衛』(星雲社、平成 21 年 5 月 1 日刊) (未見) (平成 22 年 9 月 9 日追加)

- ・小野寺龍太（1945～）『栗本鋤雲一大節を堅持した亡国の遺臣一』（ミネルヴァ日本評伝選、ミネルヴァ書房、平成 22 年 4 月 10 日刊）（巻末「人名索引」参照。）（平成 22 年 9 月 9 日追加）
- ・小野寺龍太（1945～）『岩瀬忠震 五州何ぞ遠しと謂わん』（ミネルヴァ日本評伝選、ミネルヴァ書房、平成 30 年 1 月 10 日刊）（平成 30 年 1 月 11 日追加）

（2）論説その他

- ・木村芥舟（1830～1901）「幕末名士小伝」（43～65 頁）中の「肥後守岩瀬忠震」（56、57 頁）『旧幕府』1（2）[1897（明治 30）.05.10]（復刻本あり（原書房（1971）、臨川書店出版部（1971.5）、周南市・マツノ書店（2003.2）。））（平成 20 年 11 月 24 日追加）
- ・「巖瀬鷗所君墓碑 永井介堂撰」（97 頁）『旧幕府』1（8）[1897（明治 30）.11.20]（復刻本あり、上述。）（平成 20 年 11 月 24 日追加）
-
- ・京口元吉（1897～1967）「岩瀬肥後守忠震とその手記」『史観』（早稲田大学史学会）（通号 62）[1962（昭和 37）.05]
- ・坂田吉雄（1906～2000）「幕末三俊の随一・岩瀬忠震（日本史発掘-16-）」『日本及日本人』（通号 1511）[1972（昭和 47）.07.00]
- ・河内八郎（1934～1990）「伊達宗城とその周辺―岩瀬忠震とその書翰」『人文学科論集』（通号 22）[1989（平成元）.03]
- ・河内八郎「伊達宗城とその周辺・続・岩瀬忠震・永井尚志ほか」『人文学科論集』（通号 23）[1990（平成 2）.03]
- ・佐藤雅美（1941～）『江戸の経済官僚』（徳間文庫）[1994（平成 6）.04]、『開国 愚直の宰相・堀田正睦』（講談社）[1995（平成 7）.07]（講談社文庫、1997（平成 9）.11）
- ・飯田虎男「安政期幕府外交の意義と限界―岩瀬忠震を中心として」『藝林』44（2）[1995（平成 7）.05]
- ・上條俊昭（1930～）『開国のとき 小説 阿部正弘』（東洋経済新報社）[1996（平成 8）.12.20]
- ・飯田虎男「一橋派運動と岩瀬忠震」『政治経済史学』（通号 368）[1997（平成 9）.02]
- ・佐藤雅美（1941～）「シリーズ日本人再発見（18）岩瀬忠震（前編）祖父と曾々祖父譲りの秀才は「開明な官僚」として名を残した」『エルネオス』5（9）（通号 58）[1999（平成 11）.09]
- ・佐藤雅美（1941～）「日本人再発見（19）岩瀬忠震（中の上編）青臭い攘夷主義者を変えた蘭人・ファビウス」『エルネオス』5（10）（通号 59）[1999（平成 11）.10]
- ・佐藤雅美（1941～）「日本人再発見（20）岩瀬忠震（中の下編）ハリスとの条約交渉で一層募った一大ミッションを組織した外遊の旅」『エルネオス』5（11）（通号 60）[1999（平成 11）.11]
- ・佐藤雅美（1941～）「日本人再発見（21）岩瀬忠震（下編）井伊直弼の怒りを買って安政の大獄で御役御免隠居永蟄居処分に」『エルネオス』5（12）（通号 61）[1999（平成 11）.12]

- ・谷光太郎（1941～）「歴史読み物 日本海軍の創設者達—創業垂統の時代の人々から学ぶ点、無しとせむや（8）島津斉彬と幕府の有司（永井尚志、岩瀬忠震）」『波涛』30（5）（通号 176）[2005（平成 17）.1]
- ・峯崎淳「日本の土木を歩く 横浜港物語（その 1）井伊直弼と横浜に港を開かせた岩瀬忠震」『CE 建設業界』54（10）（通号 641）[2005（平成 17）.10]
- ・赤塚行雄（1930～）「知性—岩瀬忠震（ただなり）のことなど（特集 知性）」『公評』43（10）[2006（平成 18）.11]
- ・阿部安成（1961～）「直弼/象山/忠震（1）競争する記念碑（小特集 地域をみる、地元に学ぶ）」『彦根論叢』（370）[2008（平成 20）.1]（平成 20 年 11 月 24 日追加）
- ・野口武彦（1937～）「幕末三美男政治家 阿部正弘/安藤信睦/岩瀬忠震（特集 男の品格と心意気 江戸のダンディズム）」『東京人』23（5）（通号 253）[2008（平成 20）.4]（平成 20 年 11 月 24 日追加）
- ・阿部安成「これは岩瀬忠震の伝記ではない。：伝記あるいは評伝という歴史記述への問い」『滋賀大学 Working Paper Series No.100』（滋賀大学経済学部）[2008（平成 20）.5]（平成 20 年 11 月 24 日追加）

【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）（令和 4（2022）年 8 月 9 日追加）

- ・「法制史学者著作目録選」中「明治警察史コーナー」
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉
- ・「松井茂久『警官陶冶篇』研究史抄一本 HP 収載「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』検討資料」
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui002.pdf>〉
- ・「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』（増訂三版、明治 25（1892）年 2 月 18 日刊）」
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf>〉
- ・「大森鍾一『直興遺篋抄』—「長男仕官に就き与へたる訓戒の書」—」
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf>〉
- ・「川路大警視青山墓前の頌徳碑検討一斑（碑文全文、付句読点文、書下し文）—故陸軍少将兼大警視正五位勲二等川路君墓表編修副長官従五位重野安繹撰—明治警察史の一齣—」
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kawaji002.pdf>〉
- ・「佐和正関係文献抄—明治警察史の一齣—」
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawatadashi.pdf>〉
- ・「坂元純瀨、國分友諒両氏の墓所について—中原英典氏のお問いかけを追って—」
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakamoto001.pdf>〉
- ・「国分友諒顕彰碑について—原田弘先生のお教えに接して—」
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kokubukenshohi.pdf>〉

- ・「篠崎五郎関係資料抄—台湾出兵時の徴集隊指揮副長の一人— 一明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shinozaki.pdf>〉
- ・「後藤松吉郎とは誰ぞ—明治警察史・日本統治下台湾警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/goto001.pdf>〉
- ・「裁判医学校乃至警視医学校関係文献一斑—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saiban001.pdf>〉
- ・「『無冤録述』検討一斑—江戸期及び明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsu.pdf>〉
- ・「続・『無冤録述』の初歩的検討—江戸期及び明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsuzoku.pdf>〉
- ・「ヘーレン大尉関係文献抄（再訂稿）」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hoen001.pdf>〉
- ・「明治中葉警官練習所訳官久松定弘等及び筆記者井土経重（霊山）検討一斑—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yakkan.pdf>〉
- ・「岩瀬忠震関係文献抄（六訂稿）—向島・ヘーレン大尉表功碑探訪余聞—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/iwase001.pdf>〉
- ・「内務省警視局御用御書物師須原鉄二とは誰ぞ—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/subara.pdf>〉
- ・「高橋雄豹博士著作目録（再訂稿）」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takahashi001.pdf>〉
- ・「田村豊氏著作目録」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tamura001.pdf>〉
- ・「中原英典氏明治警察史研究関係著作目録抄（参考）渡辺忠威氏警察史関係文献抄」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakahara001.pdf>〉

【関連事項】（令和 4 年 8 月 8 日追加）

- ・法制史学会： 〈<https://www.jalha.org/>〉
- ・国立国会図書館： 〈<https://www.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和 4（2022）年 5 月 19 日開始）
〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー（令和 4（2022）年 4 月 1 日追加）
〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉

- CiNii: [〈https://ci.nii.ac.jp/〉](https://ci.nii.ac.jp/) ⇒ [〈https://cir.nii.ac.jp/〉](https://cir.nii.ac.jp/) (【[2022] 4/18 更新】CiNii Articles
の CiNii Research への統合について)、[〈https://ci.nii.ac.jp/books/〉](https://ci.nii.ac.jp/books/)

(了)